

1 題材名 持続可能な社会をめざして環境にやさしい消費者になろう

2 題材について

(1) 生徒の実態

本学級の生徒はこれまでに、家庭分野の授業では「B衣食住の生活」や「C消費生活・環境」の「消費生活」について学習しており、「環境」については深く学習をしていない。しかし、総合的な学習の時間において「環境に関すること」を2年間学習しており、世界や日本における環境問題の現状や原因などの知識に関して身に付けてきた。「C消費生活・環境」について学習するにあたって意識調査（令和5年5月実施 茨城大学教育学部附属中学校第3学年2組36名対象）を行った。

質問した内容	かなり当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
問1 環境に配慮した生活について問題を発見し、自分なりの課題を設定することができるか。	8名	23名	5名	0名
問2 買う前に必要かどうか考えているか。	9名	22名	5名	0名
問3 資源をできるだけ大切に長く使用しようと心がけているか。	15名	20名	1名	0名
問4 廃棄のことまで考えて購入しているか。	4名	14名	16名	2名

問1の設問に対して、「かなり当てはまる」と8名が回答しており、よりよく生活するために、環境についての課題意識をもっている生徒がいる一方で、「ある程度当てはまる」、「あまり当てはまらない」と28名が回答していることから、現在の生活に満足しており、環境に配慮した生活に関して課題があまりないと感じる生徒もいることが分かった。また、問2と問3の設問から、消費者として環境へ配慮した生活を心掛けようとしているのが見受けられるものの、問4の設問の結果から、消費生活の循環である「生産→販売・提供→購入・消費→廃棄・再利用」の中で、購入及び消費するものについて廃棄や再利用を考える意識が低いことが明らかとなった。

(2) 題材観

そこで、自分や家族の消費生活を見直して課題を設定し、計画、実践、評価・改善という一連の学習を通して、よりよい生活を送ることができるようにしたいと考え、「消費生活・環境についての課題と実践」を題材と設定した。

現在、私たちを取り巻く消費社会は、情報化の進展や環境問題の深刻化に伴い大きく変化し、購入方法の多様化や低価格で大量生産された商品など、便利で豊かなもので溢れている。中学校学習指導要領（平成29年告示）解説技術・家庭編では、「C消費生活・環境」の学習について「課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、身近な消費生活と環境についての課題を解決する力を養い、身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度を育成すること」をねらいとしている。生徒が将来、消費者の一人として、よりよい消費生活を送ることができるようにするために、自ら課題をもって考え、実践的・体験的な学習を通して、主体的に取り組む態度を育成していきたい。

(3) 指導観

そのため、指導に当たっては、自分の生活の中から課題を発見し、実践を進め「実践してよかった」とうれしくなる気持ちを実感し、次の学習へと学びを生かすことができるように学習活動を充実させたい。そのためには、消費行動のチェックを行い、その結果から自分や家族の消費行動について振り返ったり、これまでの学習の記録を参考にして、環境に配慮した消費行動について具体的にイメージできるようにしたりして、課題を設定できるようにする。その際、他の教科・内容とも関連を図り、より実践的な学習活動となるように工夫する。また、生活環境や実践する力などは、一人一人が異なるため、個人に合った方法で課題を解決することができるように、グループや学級全体で話し合ったり、ICTを活用して調べたりする。最後に、実践発表会を設定することで自分の実践について他者からの評価を受けることができるようにする。そして、自分の考えを再構築して改善を図ることで、次の学習への実践意欲を促し、よりよい消費生活を送ることができるようにしたい。

3 題材の目標

- (1) 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
〔思考力、判断力、表現力等〕
- (2) 家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、自分や家族の消費生活について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして生活を工夫し創造し、家族や地域などで実践する。
「学びに向かう力、人間性等」

4 題材の学びの価値とそれを実感させるための手立て

(1) 題材の学びの価値

消費者として課題を解決すると、地球も自分もうれしい

家庭分野が考える学びの価値は「生活や社会の課題が解決するとうれしい」である。生活や社会の中で困難な課題に遭遇したとき、既習事項を生かして解決方法を考え、実践することで「課題を解決できてうれしい」と満足感や成就感を得ることができると考えた。また、実践活動の評価・改善を検討することで、次の学びに向けてさらに主体的に取り組む態度を育むことをねらいとしている。

そこで本題材では、家庭分野の指導事項「生活の課題と実践」の「(3)消費生活・環境についての課題と実践」について取り扱う。他の内容と関連を図りながら、自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践し、評価・改善を図る学習をすることで、地球も自分もうれしく感じられるようにしたい。

(2) 題材の学びの価値を実感させるための手立て

① 題材の工夫

生徒にとって身近な問題となるように、家庭分野に係る見方・考え方の視点範囲をこれまで学習した「衣食住」とする。グローバル市民科では、2年間「環境に関する学習こと」を学習している。教科等横断的な学習の充実を図ることで、地域や社会・家庭で生活しているということをより実感できるように工夫していく。

② 実践的な態度を育てるための工夫

実践的な態度を育むためには、問題解決的な学習の一連の学習過程が重要である。「解決方法の検討と計画」の段階では、見通しをもって計画を立てる場面を設定し、環境に配慮した生活の課題について多面的・多角的に捉え、解決方法を友達と協働しながら検討できるようにする。そして、「課題解決に向けた活動実践」の段階では、家庭での取組の調査や保護者からのアドバイスを得る活動を通して、家庭とのつながりを意識して実践できるようにする。最後に、「実践活動の評価・改善」では、課題の解決に向けて実践・調査したことを振り返り、考察したことを発表し、友達からの意見を参考にして改善策を検討することで、次の学習への意欲付けとする。このような一連の学習過程を行うことで、生徒が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを感じて満足感を得られるように工夫する。

③ 教材・教具の工夫

ア ICTの活用

環境に配慮した生活の問題を見極め、課題の解決方法を考える場面や実践・調査した内容を振り返ってまとめ、発表する場面でICTを活用することで、個に応じた課題設定や解決方法の検討などを効果的に行うことができる。

イ ワークシートや学習形態の工夫

課題の設定、計画、実践、評価・改善という一連の流れがわかり、題材を見通せるワークシートとすることで、生徒が学習の見通しをもち、計画を立てやすくなったり、学習した内容を振り返ったりしやすくなるように工夫する。また、ワークシートを家庭へ持ち帰ることで、学校での学習の様子が家庭にも伝わり、実践意欲へとつながるようにする。

また、学習形態の工夫としてジグソー法を活用する。よりよい解決方法を考えるために、メンバーが得た情報を相互に働かせて、協働的に話し合う機会となるように工夫していく。

4 指導と評価の計画（5時間扱い）

時間		○…評価規準【評価方法】	知・技	思・判・表	主体的	学習内容・活動	○指導上の留意点 ◎規準を実現するための手立て ★題材の学びの価値を 実感させるための手立て
次	時						
	1 2	① 環境にやさしい消費生活をするために、問題を見いだして課題を設定している。【ワークシートの記述の確認】		①		○ 環境に優しい消費生活を送るために、家庭の中から問題を見だし、課題を設定する。	★ 「B衣食住」との関連を図ることで、地域や社会・家庭とのつながりを意識できるようにする。 ◎ 家庭の中から問題を見だし、課題を設定するために、自分の生活についてチェック項目で確認できるようにする。
1	3 本時	② 環境にやさしい消費者になるために、課題の解決に向けて、よりよい生活を考え計画を工夫している。【ワークシートの記述の確認、行動観察】		②		<p>1 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 持続可能な取組とするためには、どのような工夫ができるだろうか。 </div> <p>2 よりよい解決方法を考える。 【同じ内容の班】</p> <p>(1) 前時で考えた、課題解決のための事前調査を提案し、検討する。 (2) 実践までの準備・計画を立てる。</p> <p>【衣食住が集まった班】</p> <p>(1) 自分の計画を伝え、困っていることなどを相談する。 (2) 友達からアドバイスを受け、改善する。</p> <p>【同じ内容の班】</p> <p>(1) 友達からもらったアドバイスを伝える。 (2) 改善案を考える。</p>	<p>○ 学習の見通しをもつために、本時の学習の流れを事前に示す。</p> <p>○ よりよい改善方法とするために、個人で考えた解決方法を同じ内容の友達とiPadを活用して共有し、検討できるようにする。</p> <p>★ 環境に配慮した生活の課題や解決方法について多面的・多角的に捉えることができるようにするために、学習形態を工夫して、他の内容での取組について考えている友達と検討できるようにする。</p> <p>◎ 課題の解決に向けて、よりよい生活を考え、計画を工夫するために、様々な視点をもった友達と対話を繰り返し、多様な考えに触れることができるようにする。</p> <p>○ よりよい消費生活・環境にするために、アドバイスを共有し、改善案を考えることで、より持続可能な取組となるように助言する。</p>

				3 本時の学習を振り返る。 ・友達のアドバイスを聞いて、環境負荷が少ない商品を調べてから洗濯するとよいと考えた。実践するときに生かしていきたい。	○ 実践への意欲付けとするために、iPad を使用して学習を振り返り共有することで、友達の考えに触れることができるようにする。
家庭・地域での実践（夏季休業中）					★ 実践意欲へとつながるようにするために、ワークシートを家庭へ持ち帰り、保護者からのアドバイスを得られるようにする。
4	③ 環境にやさしい消費者になるために、課題解決に向けた一連の活動について、考察したことについて筋道を立てて説明したり、発表したりしている。【ワークシートの確認、行動観察】		③	○ 実践についてまとめ筋道を立てて発表する。 ・実践したことを iPad を使用してまとめる。 ・実践発表会を行い、お互いにアドバイスをし合う。	★ 家庭での取組を振り返り、うれしい気持ちを表現するために、ICT を活用し、個人で実践・調査した内容をまとめ、発表できるようにする。 ◎ 課題解決のために考察したことについて筋道を立てて説明したり、発表したりできるようにするために、ICT を活用する。
5	① よりよい生活にするために、消費生活と環境について新たな課題を見付け、家庭や地域での次の実践に取り組もうとしている。【ワークシートの記述の分析、行動観察】		①	○ 実践したことを評価する。 ・改善し、新たな課題を見付け、次の実践課題を設定する。	★ 次の学習への意欲付けとするために、課題の解決に向けて実践・調査したことを振り返り、考察したことを発表し、友達からの意見を参考にできるようにする。 ◎ 消費生活と環境についてよりよい生活にするために、新たな課題を見付け、次の実践に向けて考えたことをまとめることで、友だちと意見を共有できるようにする。